

## とりまとめに向けた中間整理（案）

## 1. 現状認識・課題

- ・高齢化、慢性疾患、生活習慣病の増加
- ・治療から予防にシフト
- ・デジタル化の進展（ビッグデータ、AI）
- ・費用対効果に対するニーズの高まり
- ・海外市場の拡大
- ・診断機器は一定の競争力、治療機器は競争力弱い
- ・アメリカ企業が圧倒的に強い。中国等新興国の追い上げ。
- ・革新的な開発はベンチャー主体。海外大手は自前主義よりもオープンイノベーション。
- ・日本はベンチャー、大手ともにプレーヤー不足。リスクに過敏、失敗に不寛容。
- ・開発に携わる医療関係者が不足。
- ・医療機器ビジネス全体がわかる人材、橋渡しできる人材が不足。
- ・長年実態は変わらず。ビジョンだけでなく実行性が重要。

## 2. 目指すべき姿

- ①グローバルに戦える日系企業の創出
- ②日本発のイノベーションの活性化

## 3. 戦略

## (1) アプローチ

具体的なプレーヤーづくりや行動を促す対応が必要

## ①グローバルに戦える日系企業の創出

- ・国内外の企業（ベンチャー含む）へのM&A投資
- ・異業種企業の参入促進

※単に規模を拡大するだけでなく、自社のコア領域を補完・拡張する、ニッチトップを狙う等、戦略的な投資が必要。

## ②日本発のイノベーションの活性化

- ・開発フィールドとしての日本の強みの活用（医療データ、高齢化社会等）
- ・産学（医・工・産）連携、ベンチャー活性化
- ・人材育成
- ・海外からの開発投資・人材の呼び込み

## (2) 注力すべき分野

AMED委員会において検討中。

- ・医療のあり方の変化（①疾患の予防・早期発見、②診断・治療の標準化・高度化、③個別化医療の進展、④患者負担の軽減（低侵襲化など）、⑤遠隔・在宅医療への対

応、⑥医療技術を用いた豊かな生き方の実現、⑦医療の効率化) 及び医療機器ビジネスの変化をベースに整理。

### (3) 対象市場

- ・先進国

現地企業との連携やM&A

- ・新興国

ローカライゼーション、キーオピニオンリーダーへのアクセス

## 4. 対応策

### ①グローバルに戦える日系企業の創出

#### <M&A、異業種参入>

- ・経営者向けの発信（市場の有望性、ビジネスの特性、リスクの適切な理解）
- ・資金面、情報面での支援（官民ファンドの活用等）
- ・市場・社会からの評価

### ②日本発のイノベーションの活性化

#### <開発フィールド>

- ・データ利活用の基盤づくり
- ・実証フィールドの提供、研究開発プロジェクトの実施

#### <人材育成・ネットワーク>

- ・医師の関与（医療機器開発人材に対する評価、知財・報酬等のインセンティブ）
- ・ビジネス人材、橋渡し人材の確保（海外経験者等の活用）
- ・人材育成（医・工・ビジネスをテーマにしたセミナー、教育プログラム等）
- ・医・工・ビジネスの交流の場づくり

#### <研究開発支援（AMED）>

AMED委員会において検討中

- ・研究開発方針の提示、基盤整備、複数プレイヤーの連携促進、基礎研究への支援、ハイリスク分野への支援等の視点を踏まえ、支援施策のあり方を整理。